

## 京都大学人文科学研究所共同研究最終報告書

### 1. 研究課題

「長い 19 世紀」におけるインド・中国の社会経済史の比較

Comparative Study of the Socio-Economic History of India and China in the Long Nineteenth Century

### 2. 研究代表者氏名

小川道大

### 3. 研究期間

2019 年 04 月 - 2020 年 03 月 (1 年度目)

### 4. 研究目的

本研究の目的は「長い 19 世紀」におけるインドと中国の社会経済史を比較する注目点を見出すことである。近年のアジア経済の興隆の中で、アジアからの世界史再考が近年の歴史学の重要な課題となっている。特に欧米による植民地支配が展開された 18 世紀後半から 20 世紀前半にかけての「長い 19 世紀」に関して、アジア間貿易研究の進展などによりアジア史の見直しが進められている。アジアの大国であるインドと中国の「長い 19 世紀」における社会経済史研究も個別にこの文脈で進展してきたが、日本における両国の歴史研究は交流が極めて少なく、アジアという枠組みで歴史を論じる研究視座も整っていないのが現状である。本研究が目指す「長い 19 世紀」における中印史の比較は、欧米列強の進出に焦点が当たったために注目されてこなかったアジア内の同異を示し、アジア史が内包する多様性やアジアという枠組み自体を再考するものであり、アジアからの世界史再考の一助となる。

This project aims to compare the key points of Chinese and Indian socio-economic history. Due to the recent growth of Asian economies, it has now become important to review global history from Asian perspectives – especially how intra-Asian trade and other characteristics developed throughout the long period of colonial rule by Europe during the nineteenth century. Although much research has been carried out on the socio-economic history of China and India, which are both great Asian powers, the study of Asian history as a whole during the nineteenth century has yet to be established in Japan because of the limited amount of academic communication between scholars who historically study each of these countries. By comparing Chinese and Indian history during the nineteenth century, this project aims to

identify similarities and differences within Asia and reconsider the diversity of Asian history in terms of a socio-economic framework – all of which has often been ignored in the past because of the focus on the colonization of Asia by Western countries. This study, therefore, seeks to review global history from Asian perspectives.

#### 5. 研究成果の概要

3 回にわたる研究会を通じて、中国史研究者はインド史のインド史研究者は中国史に対する理解を深めることができた。同時に、これまでの中国とインドの比較史研究における問題点と、中印比較史を行うことの目的・意義を議論することができた。また、実証研究をベースにしつつも抽象度をあげたモデルを呈示して「制度」を比較することや、中印の歴史的背景および政治・社会構造の差異について意識することの重要性をあらためて確認した。以上の議論をもとに、今後は土地制度・労働力・航運・金融といった側面を中心として、中印比較史の共同研究を推進するとともに、国内・国際学会などの場を利用しつつ、積極的に研究成果を発信していく予定である。

#### 6 共同研究に関連した公表実績

なし

#### 7 研究成果公表計画および今後の展開等

なし